

●浜の話題

- 9月19、26日および10月3日、長井町漁協所属のワカメ種苗生産漁業者が育成しているワカメ種系の状況を、担当普及指導員が顕微鏡で確認しました。9月から育成小屋内を明るくし、外の海水を足して栄養補給するよう指導してきたところ、10月には2から4細胞列の芽胞体（ワカメの芽のようなもの）が多く観察され、仮沖出し（ワカメ種系の幼葉をより成長させるため、養殖イカダに設置すること）の準備が整いました。長井地区では、藻食性のアイゴ等による食害を防ぐための対策を施したうえで、毎年ワカメ種系を仮沖出ししています。



ワカメ種系の顕微鏡画像（左50倍 右100倍）。2～4細胞列の芽胞体が多く確認できた。

- 9月20日、上宮田漁協およびみうら漁協（金田湾地区）に所属する漁業者が育成しているワカメ種系の状況を、担当普及指導員が顕微鏡で確認しました。その結果、種系には卵細胞やこれが成長した芽胞体が観察され、10月上旬の仮沖出しに向け、育成小屋を徐々に明るくして海水を足し、芽胞体の成長を促すよう指導しました。
- 9月20日および21日、各浜で（公財）県栽培漁業協会があっせんしたカサゴの種苗放流がありました。20日には（公財）相模湾水産振興事業団が腰越地先に12,000尾を、21日には（一財）横須賀西部水産振興事業団が大楠と長井地先に計8,000尾の稚魚を放流しました。種苗のサイズはどちらも全長約6cmで、長井地先の放流の際には県立海洋科学高校の生徒が参加したそうです。
- 9月20日および21日、小田原市漁協青年部は、今年6月に小田原地先に設置した竹魚礁に蜻集した魚を釣獲し、出荷する取り組みを行いました。この取り組みは、小田原市の助成を受けている鮮度保持対策研修事業の一環で実施しています。今回はサバ、イナダ、カワハギ等を中心に釣獲し、出荷試験を行いました。



青年部釣獲試験の様子



釣獲した魚

- 9月25日、県水産技術センターは神奈川県青年漁業士養成講座（漁業技術コース）を開催しました。これは漁業者グループの指導者としてふさわしい漁業士を育成するために、漁業士認定申請者を対象に実施したものです。当日は3名の受講生が出席し、同センター職員から本県漁業の概要や栽培漁業、水産物ブランド化などについて講義を受けるとともに、センター内の各施設も見学しました。



講義を受ける受講生



種苗生産施設を見学する受講生

- 9月25日、鎌倉漁協漁業研究会は「磯焼け対策勉強会」を開催しました。担当普及指導員が低予算で簡易に実施できる磯焼け対策として、台風等の大しけで漂着したアラメ・カジメを用いたスポアバック設置やウニ潰し、親縄設置によるワカメの増殖等について説明した後、同研究会の取組内容について協議しました。
- 9月25日、岩漁協は、昨年から取り組みを始めたカジメ場造成について、今年も引き続きカジメの成熟状況を調査しました。調査の結果、あと2週間程でスポアバックの作成が出来る状態になっていることを確認しました。また、同日午後からは真鶴町漁協海女組合がカジメ場造成の勉強会を開催し、今年から同組合員が中心となり、同漁協でもカジメ場造成に取り組むこととなりました。



子嚢斑が出始めたカジメ葉

## ●お知らせ

- 10月16日火曜日9時から、茅ヶ崎漁港荷捌き所において茅ヶ崎市漁協が「さかなの市」を開催します。茅ヶ崎沖をはじめとした相模湾で獲れた魚の直売や、サザエのつかみ取りが行われます。また、今年は漁協が無料で魚のあら汁を配布するほか、キッチンカーで商品を買われた方は、魚などが当たるくじに参加出来るといった新しいイベントを行う予定ですので、ぜひご来場ください。